資料２

各ワーキング・グループの検討状況について

東京都

UI/UX・ワーキンググループ

UI/UXワーキンググループの検討サマリ

TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT

課題

- ✓ デジタルサービスに都民目線が欠如
- ✓ 諸外国の事例から、評価の高い行政サービスを提供している組織はサービスデザイン、顧客視点、デザイン思考を重視

サービスデザイン

目指す姿

- ✓ 都庁職員あるいは委託事業者が、**顧客のニーズを満たした質の高いサービスを提供できる**ようにすること。ニーズには**潜在的なもの**を含む。

今年度取組

- ✓ **目指す姿、マイルストーンの整理**（**スライド4**）
- ✓ 【予備調査】ワークショップ
- ✓ 【予備調査】海外事例調査
- ✓ 先行実施に必要なガイドラインの準備

次年度活動

- ✓ 複数の各局事業で先行実施を行い、**成功事例をつくる**とともにそこで学んだ知見を**ガイドラインに反映**する。

サービスデザイン ＞ 今年度の取組 ＞ 目指す姿、マイルストーン

TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT

	R3(2-3月)	R4	R5	R6	ToBe
	R4準備	先行実施 成功事例創出期間	拡大	構造化（この活動を持続可能にする）	再現性のある形で目的を達成した状態
事務局作業	• 先行実施のプロジェクト候補洗出し • ワークショップ（課題・現状ヒア） • 事例調査	• 先行プロジェクト実施 • 振り返り,教訓整理 • 事例公開 • 拡大準備	• 他部局への拡大（実装補助） • 振り返り,教訓整理 • 庁内デザイン専任体制の準備	• デザイン専任体制を確立（各局への助言・監視） • ルールへの組み込み	
ガイドライン	先行実施に必要な記述▼	β版▼	第1版▼	第2版▼	
体制	-	• 先行チーム 都・委託先・有識者	• 準備チーム 都・委託先・有識者	• 専任チーム 都中心チーム・委託先	
実施部局	-	• 2～3局ほどで先行実施	• 数局ほどで実施	• 条件を満たすプロジェクトは実施	• 各局等で実施
組織の浸透度	何が良いか分からない	良いものと理解、一部で実践		体系化され、一部必須	浸透・自走可能

持続可能な手法の確立、普及フェーズ

UI/UXワーキンググループの検討サマリ

TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT

課題

- ✓ ウェブアクセシビリティ確保に関する課題が顕在化
- ✓ 一方で「＃3 誰ひとり取り残されないようにしよう」に対応するためにはウェブアクセシビリティの対応のみでは不足

アクセシビリティ

目指す姿

- ✓ インクルージョン・包摂（多様な特性をもった人が、様々な環境でサービスを利用することが可能）の実現

今年度取組

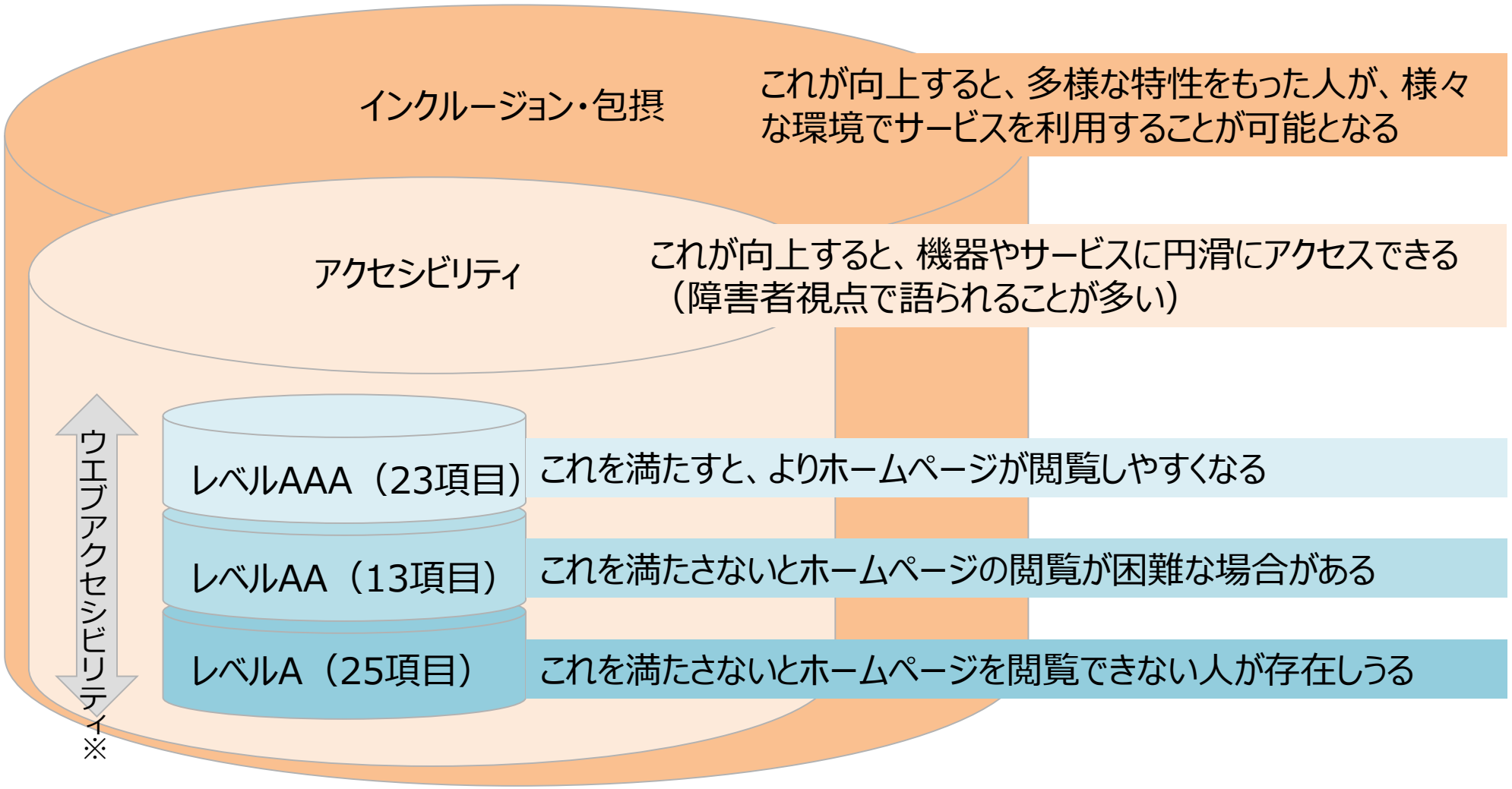
- ✓ **スコープの整理**（**スライド6**）
- ✓ Webアクセシビリティ現状調査

次年度活動

- ✓ インクルーシブデザインの領域へ拡大のため、体制整備の議論を予定

アクセシビリティ ＞ 今年度の取組 ＞ スコープの整理

- まずは足元のウェブアクセシビリティ改善から取組み、次年度以降インクルージョン・包摂の領域まで拡大する



※ウェブアクセシビリティのレベル分けや項目数はJIS X 8341-3:2016によるもの

データ利活用・ワーキンググループ

データ利活用WGの検討サマリ

TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT

課題

- ✓ 都民に向け**ワンスオンリー、ワンストップ**が実現できていない
- ✓ デジタルシフトを加速する中で、**早期に整備**が必要

目指す姿

- ✓ データ利活用の観点から**データの設計～廃棄までを適切にマネジメント**できるようになること

- ➢ 適切なマネジメントのためには、**ガイドラインの遵守が**必要
- ➢ いきなり全プロセスに取り組むのではなく、まず**既存庁内データ（スライド9）を保持・整備するプロセス（スライド10）から着手**
- ➢ さらに、ガイドラインを遵守させるためには、職員がデータを活用すること・共有することのメリットを把握することが必要であり、**ケーススタディの創出**に取り組む。（なお浸透のためには職員業務の効率化にも寄与できるものが望ましい）

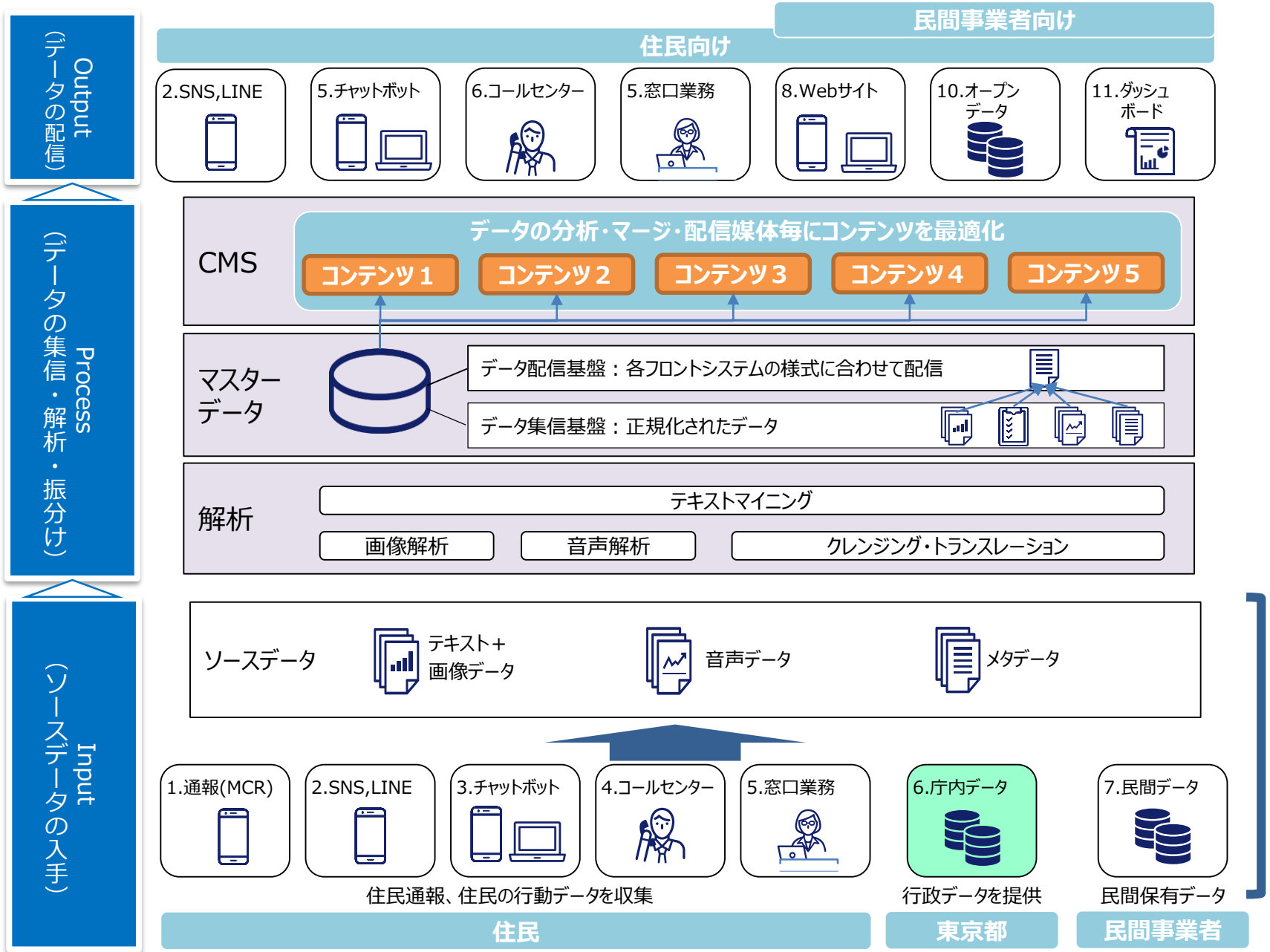
今年度取組

- ✓ **対象データおよびプロセスのスコープ整理**（**スライド9、スライド10**）
- ✓ ガイドライン骨子、データ品質の整理
- ✓ ケーススタディのフィールド整理

次年度活動

- ✓ ケーススタディのフィールドにて、データによる課題解決と策定したガイドラインの有用性を確認

データ利活用WG ＞ 今年度の取組 ＞ 対象データのスコープ



まずは庁内情報をはじめとした、インプット情報を利用価値のあるデータとして生成・整備するために、遵守するチェックリストを策定

データ利活用WG ＞ 今年度の取組 ＞ 対象プロセスのスコープ

TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT

“ソースデータの入手”の流れ

	データ設計(企画)	データ収集	データ保持・整備
As-Is	ー 事前のデータ設計を未実施	ルール/ツール無 2022年… 令和4年… (N/A) 調査・記入方法等にばらつき、不正値や欠損値が発生	結合不可 csv ✖ csv pdf 非統一・活用し難い状態のデータが庁内に散在
To-Be	ルール/ツール ファイル形式 標準への適合 精度・更新頻度 ・・・ 適切なデータ設計を実施	ルール/ツール 2022… 2022… ルールを整備、誤データを縮減	ガイドライン 交通 防災 建設 最新性 網羅性 … データを円滑に連携・随時評価

今後ガイドライン等の対象範囲を拡張

今年度の取組対象

(以降のデータ公開・活用)

As-Is	To-Be
低品質データ データの前処理・連携に係る手間・コストが利活用のハードルに	高品質・標準化されたデータ 分析 公開 民間連携 効率的な公開や分析、民間データとの円滑な連携が可能

セキュリティ・ワーキンググループ

セキュリティWGの検討サマリ

TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT

課題

✓ 今後、手続のデジタル化を進め都が預かる都民のデータが増えるなかで、特に**開発時におけるセキュリティ対策の徹底が必要**

目指す姿

- ✓ 「計画」から「廃棄」までの各プロセスにおける**全庁統一の具体的なセキュリティ対策**を規定するガイドラインを策定
- ✓ 開発プロセスに関わる委託先を含む職員を対象に、**プロセスごとに守るべきセキュリティ対策**をチェックリスト方式で記載
- ✓ 今後新たに構築されるシステムにおいても必要なセキュリティ対策を実施

今年度取組

- ✓ 全庁統一のサイバーセキュリティポリシーを上位規程とし、サイバーセキュリティポリシー等に記載のセキュリティ対策について、**開発プロセスごとに確認できるガイドライン骨子案**を策定（**スライド13**）

次年度活動

- ✓ デジタルサービス開発に係るセキュリティガイドラインを策定
- ✓ 総務省が今年度公表予定の「地方公共団体における情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」改定案を踏まえ、都のサイバーセキュリティポリシーを改正したうえで、クラウドサービス利用に関するガイドラインを作成
- ✓ 職員への周知を実施（研修等）、政策連携団体にも提供
- ✓ 警視庁、国、区市町村との連携体制を強化

セキュリティWG ＞ 今年度の取組 ＞ 骨子案

TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT

・職員がデジタルサービスに係る開発を行う際に、サイバーセキュリティポリシー等に記載のセキュリティ対策についてプロセスごとに確認し、必要な対策が取れることを目指す

セキュリティガイドライン骨子案・大項目(案)

1. ガイドライン策定の目的

2. 計画

➢ 計画におけるセキュリティ対策

総合重要度に応じたセキュリティ対策（イメージ）

開発プロセス			総合重要度 ※1			
			A	B	C	
2 計画						
	2.1計画	(1) ××××××××××××× （対策基準×.×）	○	○	○	
		(2) ××××××××××××× （対策基準×.×）	○	△		※2

※1 総合重要度とは、サイバーセキュリティポリシーに規定する分類☒
機密性、完全性、可用性を踏まえ総合的に判断☒

※2 ○は必ず対応するもの、△は必要に応じて対応するもの

3. 整備

➢ 要件定義におけるセキュリティ対策
➢ 調達、委託先選定におけるセキュリティ対策
➢ 開発におけるセキュリティ対策
➢ テストにおけるセキュリティ対策

4. 状況把握

➢ リスク評価
➢ 自己点検
➢ 監査

5. 利用終了、契約終了、廃棄

➢ 利用終了、契約終了、廃棄におけるセキュリティ対策

議事での論点

TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT

- 各ワーキンググループの取組に関し、今年度の取組や次年度の方向性について、重要視すべき事項や、不足している観点・伸ばすべき観点などを御示唆いただきたい

小野構成員ご発言内容

TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT

各ワーキングについて

- ✓組織へ浸透する際、可視化だけではなくスピードを出すということも大事。（再掲）
- ✓浸透を加速させるためには最初に多くの人にインパクトがある効果を出すことは大事。あたらしい取組を始めたとき、みんなが特別な注目を払うのはやはり1年目である。最初の3つ以内くらいで良い事例が出せると良い。
- ✓現場の声を聞いたらなぜここにこの技術を使っていないのか、といったものが見つかることが多い。あらかじめ見込んでいた成果より、予定外で見つかるものの効果のほうが高いことが多い。予定外の成果は見えにくいため、しっかり振り返りを行い、予定外の成果も可視化し内外に出していくことが大事。